

東海経済レポート（2012年1月）

～輸送機械が牽引し、当面高水準の生産が見込まれる～

経済調査室（名古屋）

1. 足元の経済情勢

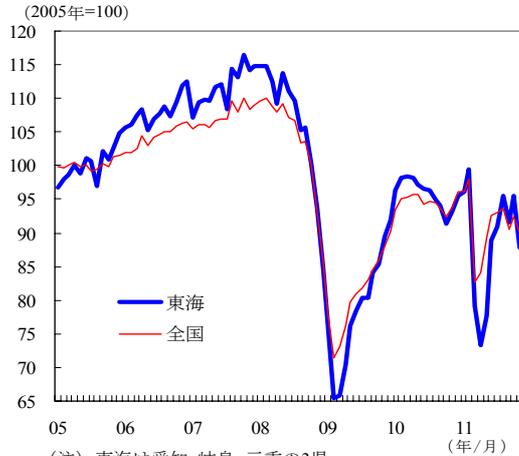
年明けの東海地域の景気は、タイの洪水の影響を漸く克服し、自動車の挽回生産が本格化している。足元は再び円高が進行しておりその動向を注視する必要があるが、エコカー補助金の復活が、当面、自動車の国内需要と国内生産台数の押し上げ効果をもたらすことになるとみられる。

- ✓ 生産は、11月は前月比▲8.1%と2ヵ月振りに減少した。11月時点ではタイ洪水の影響が残り、輸送機械が大幅なマイナスとなっているが、大手自動車メーカーは11月下旬には生産が正常化したと発表していることから、洪水の影響は11月でほぼ出尽くしたとみられる。
- ✓ 輸出は、11月は前年比伸び率が+0.6%まで低下した。自動車の挽回生産が遅れた影響だけではなく、円高と海外経済減速の影響が出始めたとみられる。
- ✓ 設備投資では、先行指標である工作機械の国内受注が、11月は前年比+21.5%と増加したが、増加幅の縮小が続いている。
- ✓ 雇用は、輸送機械の大幅増産に伴う期間従業員の新規採用の動きなどから改善傾向が続き、愛知県の有効求人倍率は2008年12月以来の水準まで上昇。
- ✓ 個人消費では、短期的な振れはあるものの大型小売販売はほぼ横ばい圏で推移。住宅着工は、住宅エコポイントの復活を前にして様子見の影響が強く、3ヵ月連続で前年比マイナスとなった。

2. 当面の注目点・リスク要因

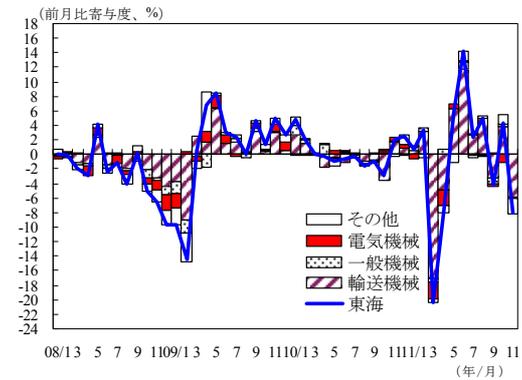
- ✓ 春前後までは、輸送機械セクターにおける積極的な新型車の作り込みと挽回生産を背景に、高水準の生産が持続すると見込まれる。
- ✓ 春以降の生産水準を左右する最大の注目点は、引き続き、海外の景気動向である。輸出依存度の高い東海経済にとって、特に欧州の債務問題悪化によるユーロ急落と世界的な消費マインドの冷え込みなどのリスクには、注意が必要であろう。

生産① 11月の鉱工業生産指数は、タイの洪水の影響により、前月比▲8.1%と2ヵ月ぶりに減少した。



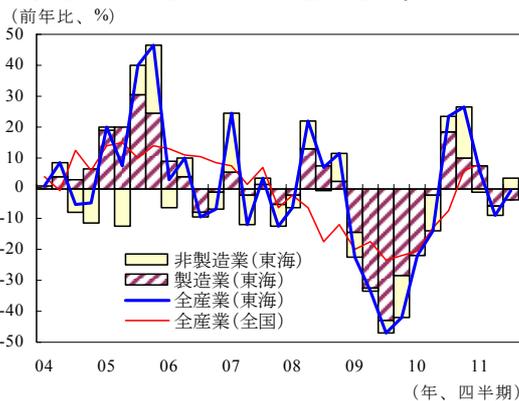
(注) 東海は愛知・岐阜・三重の3県
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

生産② 業種別では、タイ洪水の影響を受けた輸送機械が大幅なマイナスとなった。



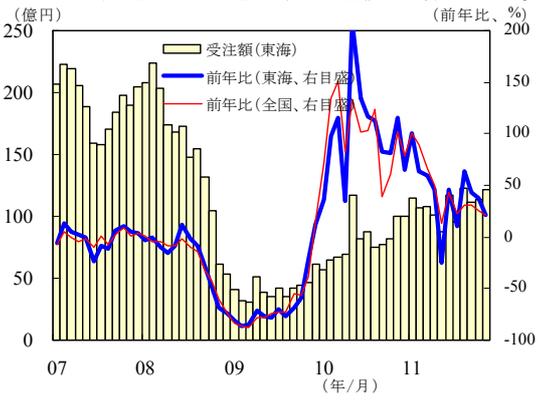
(注) 1. 季節調整値
2. 東海は愛知・岐阜・三重の3県
3. 電気機械は電子部品・デバイス等を含む旧分類
(資料) 中部経済産業局「管内鉱工業の動向」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

設備投資 7-9月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資(除くソフトウェア)は、前年比▲0.7%とマイナス幅が縮小。



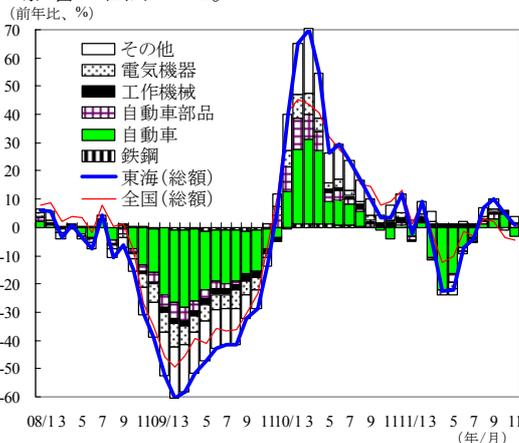
(注) 1. 東海は、愛知、岐阜、三重、静岡の4県
2. 資本金10億円以上の企業を対象
(資料) 東海財務局「四半期別法人企業統計調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

金属工作機械受注 設備投資の先行指標とされる金属工作機械の国内受注額は、11月は前年比+21.5%と6ヶ月連続で増加した。



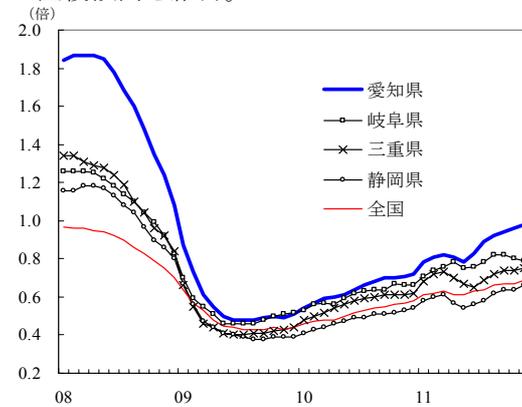
(注) 1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社
2. 受注額は当室による季節調整値
(資料) 中部経済産業局「金属工作機械受注状況」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

輸出 11月の輸出額は、前年比+0.6%まで減速。懸念されたとおり、円高と欧米経済減速の影響が出始めた。



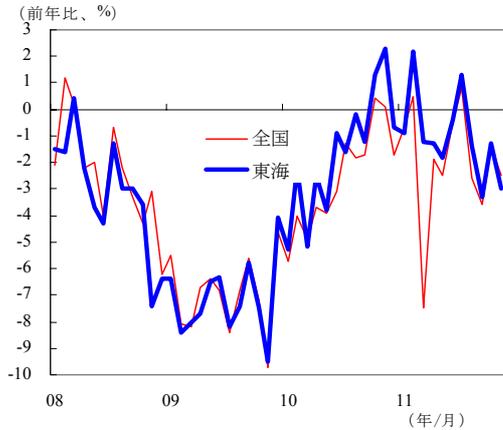
(資料) 財務省「貿易統計」、名古屋税関「管内貿易概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

雇用 11月の愛知県の有効求人倍率は0.98倍と、2008年12月以来の高水準。他県も概ね回復傾向を維持。



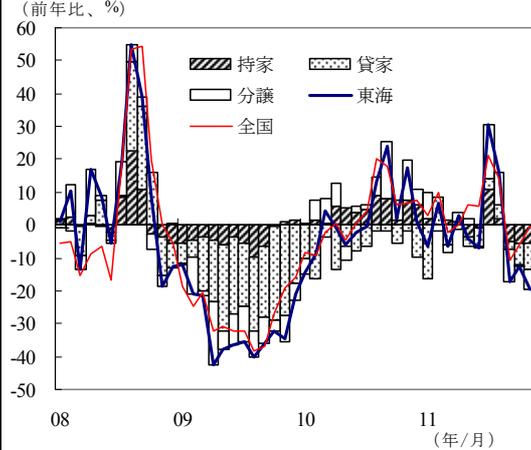
(注) 1. 有効求人倍率=有効求人数/有効求職者数
2. 季節調整値
(資料) 厚生労働省「一般職業紹介状況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

個人消費 11月の大型小売店販売額（既存店）は前年比▲3.0%と4ヵ月連続で減少した。



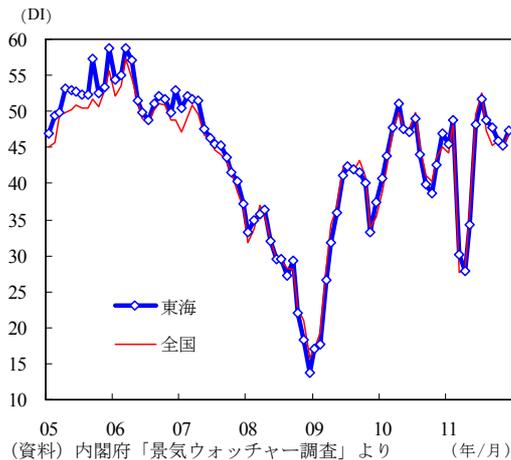
(注) 東海は愛知・岐阜・三重・富山・石川の5県
(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

住宅投資 11月の住宅着工戸数は前年比▲19.5%と、3ヵ月連続で減少した。



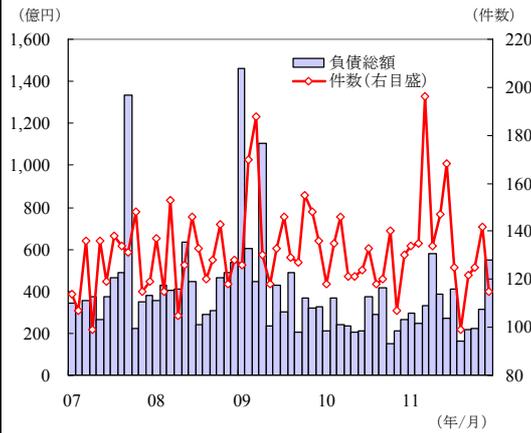
(注) 東海は愛知・岐阜・三重の3県
(資料) 国土交通省「建築着工統計」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

景気ウォッチャー調査 12月の景気現状判断DIは47.4と、5ヶ月ぶりに上昇した。



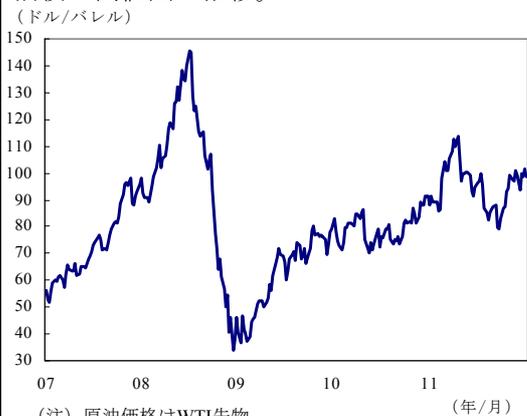
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

倒産件数 12月の企業倒産件数は115件と減少（前年比では▲11.5%）。負債総額は同+105.2%と増加。



(注) 愛知・岐阜・三重・静岡・長野の5県
(資料) 東京商工リサーチ「倒産月報」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

原油価格 米中の経済指標が底堅いことや、イラン・中東情勢の緊迫化を受け、100ドル前後の高値圏で推移。



(注) 原油価格はWTI先物
輸入物価指数は契約通貨建てベース
(資料) 日本銀行「企業物価指数」、Bloombergより
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

円相場・株価 リスクを回避する傾向が持続し、円相場は再び76円台へ。株価は低下傾向を持続。



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H24.1.25 富田 潤 jiyun_tomida@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。